

「奇跡」じゃなくて「積み重ね」 3回目の避難訓練

2日に起こった航空機の衝突事故から航空機の乗員乗客379人が全員脱出したニュースは海外では『Miracle』と報道されているようです。しかし、航空関係者の方は、『日頃の積み重ね』とニュースでコメントされているのを拝見しました。今回の事故では、8名のCAが状況確認し、互いに連絡を取り合い、脱出できる場所を見つけて誘導したそうです。CAの方、一人一人が乗客のために自分ができることは何かを考えて行動できたこと

が今回の避難につながりました。また、乗客の方々の「CAさんの言うとおりにしていたら大丈夫だから」「煙がでているから頭を下げて」「荷物を出さない」という声があったことも機内がパニックならず避難できた要因とのことでした。

今日、今年度3回目の避難訓練と阪神淡路大震災メモリアル集会を実施しました。地震発生を8時としました。この時間帯は子どもたちが宿題を出したり、係や委員会の活動をしていたりしているときで、子どもたち



にとっては自身の状況判断、これまでの訓練の成果が試される場面です。先生方も同様で、管理職と担当以外に役割を明記せずにその場の状況と年度当初の役割分担をもとに対応することとしました。

職員室では「1階の状況を確認します」とすぐに壊れた個所がないか確認しに行く先生。2・3階の状況確認は各階下に常時設置しているトランシーバーで行いました。避難指示直後の教室へ行くと「トイレにだれかいますか」と声をかけて、取り残された子がいないか確認しながら避難を促している先生、「そこのトイレはみました」と声をかけ合っている先生方の様子を目にしました。今日の訓練はこれまでの積み重ねの上にできたと感じていますが、先生方からも子どもたちからも成果と課題を出し合い、より安全により確実に避難できるように取り組んでいきたいと考えています。

メモリアル集会では、阪神淡路大震災を契機に編成された兵庫震災・学校支援チーム（EARTH）の一員である本校職員が、今回の能登半島地震の様子を中心に話をしてくれました。また



29年前の震災で被害に遭った神戸市の先生が作詞作曲された「しあわせ運べるように」をみんなで歌いました。歌詞の背景には、EARTH隊員の方が現在派遣されている能登の小学校の子どもたちの様子を載せてくれてい

ました。大変な中でも友だちと笑顔で過ごしている子どもたちの姿にぐっとくるものがありました。最後に私たちにできることを考えるように話してくれました。子どもたちからは、どんなことが出てくるか、尋ねていきたいと思います。